

## 正誤表

『パートナー分析化学Ⅱ 改訂第3版』 (第1刷)

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

(2018.2 南江堂)

頁	行	誤	正
90	↑ 6	共鳴の強さを縦軸に	信号強度を縦軸に
90	↑ 3~4	感度は他の分光分析法と比べて相当に悪い.	他の分光分析法と比べて感度は相当に低い.
91	5	SN比 signal-to-noise-ratio (S/N) が	SN比 signal-to-noise-ratio が
91	7	常に適正な積算回数	適正な積算回数
93	図2-50の 右上部		目盛「-0.0」を削除
105	↑ 4~14	この場合のメチンプロトン (H3) のシグナルは、~歪んでいるのがわかる.	したがって、これらは互いに大きくカップリング ( $J = 14.4$ Hz) するとともに、メチンプロトン (H3) ともカップリング ( $J = 7.3$ Hz または $J = 6.4$ Hz) し、それぞれ二重の二重線で現れている。ただし、既述のように、カップリングする相手に近い側の共鳴線が強く現れ、積分強度比は1:1:1:1から歪んでいるのがわかる。一方、メチンプロトンのシグナルは、隣にメチル基も存在するので複雑に分裂している。まず、等価な3個のメチルプロトン (H4) によって4重線 ( $J = 6.3$ Hz) に分裂し、それぞれが互いに化学的非等価な2個のメチレンプロトンによって、 $J = 7.3$ Hz および $J = 6.4$ Hz のカップリング定数でさらに分裂している (理論的には二重の二重の四重線)。ただし、カップリング定数にあまり差がなく分離不十分であるため、理論どおりの分裂線にはみえていない。このような多数のピークから成るシグナルの形状を多重線 (マルチプレット multiplet) と呼ぶ。
107	↑ 3	ことがわかる (まずは、	と推定される (まずは、
113	5	変化させて取得するのが一般的な方法である.	変化させて測定するのが一般的である.
132	2	$f = \frac{zeB}{2\pi m}$	$f = \frac{zeB}{2\pi m}$